

令和3年度 動物慰霊祭が執り行われました

動物愛護週間の去る9月21日（火）、医学部みのはな同窓会館において教育及び研究に尊い命を提供し、研究に貢献された動物達の御霊に対し、哀悼の意を捧げる目的で動物慰霊祭が執り行われました。コロナ禍のため昨年度に続き式典は関係者のみで行い、一般献花は研究領域ごとに時間を分けて参席いただきました。

式典ではまず松原久裕医学研究院長より「医学や医療技術の発展は様々な方の協力のうえに成り立っているといえるでしょうが、それは人に限られたことでなく、尊い実験動物たちの犠牲の上にも成り立っていることを忘れてはなりません。動物の犠牲なくして医学・医療の進歩発展があり得ないことを考えれば、私たちは人間として動物倫理の基本原則の3R Replacement・Reduction・Refinementについて最大限配慮しながら、実験にあたっていくべきであり、それが動物実験を行う者の責任と義務でもあると考えます。しかしながら何より最も重要なことは動物実験に携わる各人が実験動物達への尊厳の念を忘れないことです。本学の医学医療の研究のために尊い生命を捧げた数多くの御霊に衷心より哀悼の意をこめて慰霊の辞といたします。」と述べられました。

続いて幡野雅彦医学研究院附属動物実験施設長より「医学医療の研究・教育のため貢献された諸動物の御霊に心より感謝の念を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。私たちは動物愛護に配慮しつつ3Rの原則を遵守し、研究を遂行しております。最近新たに動物福祉に配慮し、3Rに加えて5つの自由（5 Freedoms: 5F）が提唱されています。すなわち 飢え・渇きからの解放、疾病・けがからの解放、痛みからの解放、精神的ストレスからの解放、そして本来あるべき行動様式を取ることができること、です。飼育を含めた動物実験において動物に過度のストレスを与えることのない様、今以上に動物福祉に配慮して研究を進めてまいります。」と慰霊の辞が述べられました。

引き続き、松原医学研究院長をはじめ亥鼻地区部局長、事務部からの指名献花が行われました。

式典に続いて日頃動物実験に携わっている教職員や学生など関係者により一般献花が執り行われ、おおよそ150名の方に参列いただきました。

（文責：動物実験施設長 幡野）



慰霊の辞を述べる松原医学研究院長



献花の様子（幡野動物実験施設長）



動物慰霊之碑